

手から手へ

—NPO法人「飛んでけ！車いす」の会に携わって—



井坂 美菜

NPO法人「飛んでけ！車いす」の会

【いさか みな】北星学園大学文学部心理・応用コミュニケーション学科に所属。札幌市で開かれる毎年恒例の「国際協力フェスタ」にて、「飛んでけ！車いす」の会と出会う。現在、コーディネーターとして、車いすを途上国に届ける活動をしている。

一八一五

この数字は、私たち「飛んでけ！車いす」の会が一九九八年の発足から約一二年間で、合計六八カ国に届けた車いすの台数です（二〇〇九年一二月現在）。この数を、あなたは多いと思いますか？ それとも少ないと思いますか？

私は「飛んでけ！車いす」の会（以下「飛んでけ」）にボランティアとして加わって半年の「見習い」の身ですが、この半年間の「飛んでけ」での経験から得たことを、自分自身の視点で書いていこうと思います。私の文章を読んでも下さった後で、この「一八一五」と

いう数字の重みを感じていただければ、とても嬉しく思います。

「飛んでけ！車いす」の会の生い立ち

世界中で約二〇〇〇万人もの障がいを持つ方々が、経済的理由から車いすを欲しくても手に入れられずにいます。その一方で、日本では車いすが再利用されることは少なく、廃棄されているのが現状です。当会ではこういった状況を少しでも改善するために、東南アジアを始めとし、世界各国に住む障がいを持つ方々に向けて、車いすを「飛ばす」つまり「届ける」活動をしています。

会が活動を始めたのは、一九九八年五月。その半年前に、会の現代理事である柳生一自さんが海外医療の研修活動でベトナムのフエにあるNGO団体「こどもの家」を訪問した際、障がいのある子どもに車いすを持つて行ったところ、とても喜ばれたことがきっかけでした。その後、以前まで事務局長であった吉田三千代さんや、車いすの整備を引き受けてくれた方、および広報活動に力を注いでくれた方など多くの協力により、会は市民団体として発足に至りました。

「飛んでけ！車いす」の会は現在、特定非営利活動法人（NPO）として活動しており、札幌通運さんの協力



途上国の人達との交流会「パラダイスカフェ」の様相。今年度はバングラディッシュから来た方々と

のもとで事務所を構え、倉庫をお借りして車いすのメンテナンス・保管を行っています。二〇〇二年には札幌通運さんと共に全国初の「パートナーシップ大賞」を、二〇〇四年には「北海道福祉のまちづくり奨励賞」を受賞しました。その後は、外務省N G O相談

員事業を受託させていただいている他、独立行政法人国際協力機構（JICA）とも協力した活動を行っております。

現在は、約五〇名がボランティアとして活動に携わり、四〇〇名以上が会員としてサポートしてくださっている他、車いすを空港まで輸送して下さる宅配業者や、各国で車いすを引き渡すお手伝いをして下さる仲介団体など、多くの人たちが会を支えています。様々なプロフェッショナルがそれぞれの役割を担う。それが当会の一つの魅力だと私は考えております。

「顔の見える国際交流」 〜広がる善意のネットワーク〜

なぜこのような沢山の人々が車いすを飛ばすために関わる必要があるのでしょうか。それは以下で説明する、当会の「車いすの飛ばし方」に関係があります。

まず、個人の方や施設から使われなくなった車いすが、車いす輸送ボランティアの手によって当会の倉庫に届きます。担当の学生ボランティアが、その車いすの大きさや重さ、形式等を調べ、それらをデータベース化します。次に、シニアの車いす整備ボランティアの皆さんが、倉庫に新しく入ってきたそれらの車いすを整備します。タイ

ヤを取り換えたりフードペダルを付けたりと、作業は大掛かりなものに及びます。

一方では、当会と関係を持つ海外の団体や施設、または個人の方から「車いすが欲しい」という連絡が入ります。私達はこのような団体を「仲介者団体」と呼び、日々関係性を保ちながらその数を増やす努力をしています。加えて、このような団体を通して車いすの利用・整備状況を確認したり、実際にスタディーツアーとして訪問して追跡調査を行ったりしています。

また、「旅行のついでに車いすを届けてほしい！」という意志を持つ方々から連絡が入ります。この「旅行のついでに」というのが、「飛んでけ」ならではの方法です。つまり、旅行者さん達は車いすを「手荷物」として飛行機に預け、旅の途中に現地まで運ぶ役割を果たしてくれるということです。とは言っても、車いす一台の重さは一般的な型のもので約一三kg。持ち運びだけでも容易ではありません。しかし今でもこの方法が続いているのは、現地の人に車いすを直接手渡してコミュニケーションを取ることで、自らが直接協力出来たという達成感と喜びを得られるからではないかと思っております。

以上で述べた、整備された車いす、現地からの車いすの要請、旅行者さん



毎週「飛んでけ！」の倉庫にて車いすを整備。

の意志だけでは、車いすは上手く海外へは飛びません。それらを結びつけてスムーズに機能させるのが、コーディネーターの役割です。コーディネーターは、旅行者さんの旅行先の仲介者団体と連絡を取り、車いす利用予定者の身体的な特徴を詳しく教えてもらいます。そして、入手したそれらの情報をもとに、整備された車いすの中からその人が使うのに適切な車いすを選びます。時には整備ボランティアの皆さんと共に、ベルトの位置などの細かい改良を加えます。更に、それと同時進行的に旅行者さんと連絡を取って、現地での引き渡し日時を調整します。以上の細かいやり取りを経て、車いすは無事目的の利用者さんのもとへと旅立つ

のです。

このような方法で、一台ずつ丁寧に車いすを届けているのは理由があります。第一に、出来るだけ個々人の身体状態に合った車いすを使ってもらいたいからです。一人一人の情報を入手し、その人の障がいや程度や種類、成長過程に適した車いすを選ぼうとしているのはそのためです。時には、重度の障がいを持つているため、書面上の情報だけで車いすを選ぶのは困難な場合もあり、医師や専門家の方々の協力を得ながら最善を尽くしております。

第二に、一台の車いすを通して「顔の見える国際交流」を推進したいと考えているからです。一台の車いすを届けるために、多くの人達が役割を担っています。この方法により、一人一人が参加したという実感や達成感を得られるとともに、訪れた国の生活や文化についてリアルに体験でき、理解が深まると考えられます。加えて、人と人が直接関わることは、自然とその間にコミュニケーションを育み、親密な関係を築きます。そしてその関係から新たな関係が生まれ、「善意のネットワーク」となって広がっていくのです。私達はこの「顔の見える国際交流」を通して、より多くの人とともに、国際協力に力を入れていきたいと考えております。

「飛んでけ」でのお仕事

当会のユニークな車いすの飛ばし方についてお分りいただけただけで、次からはこの半年間で私が経験してきた「飛んでけ」での仕事内容をお話します。

〈初コーディネーター〉

私は主に、コーディネーターとして当会に関わっています。先ほど申し上げたとおり、コーディネーターには、旅行者さんとの連絡、現地の仲介者との連絡、そして適切な車いすの選定という、大きく三つの役割があります。見習い期間で指導を受けた後に私が担当したのは、まだ二件ほどですが、他のコーディネーターの皆さんは、同時に二〜三件のコーディネーターを担当することもごく当たり前です。

私が初めて担当した海外へのコーディネーターは、タイのチェンマイに車いすを二台届けるものでした。

初のコーディネーターで不安だったことは、第一に、旅行者の方が無事車いすを現地まで運び、仲介者の方の手に渡すことが出来るかということです。当会からタイへは、今まで約二五〇台もの車いすが飛んでいるために体制はしっかり整っていますし、仲介を請け負ってくれた方も顔なじみでした。た



車いすを受け取った病院の方々（タイ・チェンマイ）

だ、旅行者と仲介者がお互い連絡を取り合うのではなく、すべての連絡事項は私を介して成されています。そのため、待ち合わせの場所や日時等の行き違いが有れば、皆さんに迷惑をかけ、場合によっては車いすが目的の人の元へ届かなくなってしまう。コーディネーターは責任重大なのです。結果的には、何回も連絡を重ねたかいあって、無事旅行者の方と仲介者の方を結びつけることができ、ほっとしています。

第二に、自分が選んだ車いすが利用者の方にしつかりとフィットするかどうかという不安もありました。私が選定した

のは、八〇代前半のおばあさんのためのもので、チェンマイにある僧侶の病院に寄付するためのもので、選定が難しいような重度の障がいを持った方ではありません。しかし、頼りに出来たのは座幅等の身体的な特徴が記入された用紙だけであり、実際に本人を車いすに座らせてみるなんてことは出来ません。身体に合った車いすを選ぶこと。これはコーディネーターにとっても難しい課題です。そのために、講師の方を招いての勉強会や「車いすフィッティング研修」といったワークショップを通して、出来るだけ沢山の知識を得る努力をしています。私が送った車いすは、無事利用者の方にフィットしたようで、喜びの写真とメッセージをいただくことが出来ました。私が見たときは、何とも言えない感動に包まれました。

今後も沢山の人の笑顔を見られるよう、コーディネーターとして成長していきたいです。

〈その他のお仕事〉

コーディネーターの他にも、「飛んでは」での活動は多方面に及びます。最近私が経験したのは、ベトナムから来た青年団の方たちとの交流会です。私たちは「飛んでけ」の活動紹介や、障

がい者であり当会の設立メンバーである佐藤正尋さんのお話の後、各グループに分かれて「障がい者の生活の質の向上」というテーマについてディスカッションをしました。少々英語が話せる私は、青年団の方達と佐藤正尋さんの通訳を主に担当していました。ベトナムから来た皆さんはとてもフレンドリーな方ばかりで、私達と熱心に会話をしていましたし、中には歌を披露してくれた方もいました。実際のところ、話に花が咲いてディスカッションどころではなかったのですが、お互いの仲が深まったと同時に、私を通じて正尋さんと青年団の方たちを結びつけることが出来たようで、とても嬉しく思いました。



JICE ベトナム青年研修にて。ベトナム青年団とのディスカッションの様



届けた車いすは、無事おばあさんの体にフィットしました！（タイ・チェンマイ）

当会で活動を続けていると、このように様々な国の人達と交流する機会に恵まれます。直接そのような人達と会話することは、彼らの国の文化や福祉事情、およびそれらに対する価値観や考え方を理解するきっかけになると思います。そして、「飛んでけ」の活動を色々な人達に知ってもらい、より多くの人たちに車いすを届けるためのネットワークを広げることが出来るのです。

「飛んでけ」World

「飛んでけ！車いす」の会に加わって活動をする中で、私が常々感じていることがあります。それは、年代や職業といった専門分野、障がいの有無を越えて、本当に色々な人達との関わりがあるということです。ボランティア活動に限らず何か新しいことを始めると、そこには必ず今まで見たことや

験したことのない世界があり、今まで出会った人とは違う、その世界ならではの出会いがあると思います。そして、その人それぞれの経験や価値観、および人生観に触れることで自身の視野を広げ、可能性を高めることができると思います。「飛んでけ」の世界でも、私にとって沢山の新たな出会いがありました。

〈車いす、障がいを持つ人との出会い〉

まず、私は車いすに関して無知だったために、車いすの整備を難なくこなす人や、障がい者のために車いすを製造・改良する専門職に就いている人に出会いました。車いすの種類が多様性やその用途も初めて知り、奥の

深さを痛感しました。そして、車いすを通して障がいを持つ方々とも出会いました。「飛んでけ」では、障がいを持つ人は「障がい者」ではなく「チームの一員」です。正直なところ、初めはその方達との接し方や介助の仕方戸惑いを覚えました。しかし、互いに会話を重ねていくうちに、相手に尊敬する部分や親しみを感ずる部分が見つかるようになりました。障がいを持つ人の中には、ヘルパー派遣のための会社を立ち上げたり、英語が堪能であったりと、自分らしい生活を送っている方々も多いのです。今後は、障がいそのものや関わる制度に対する知識を増やしていきたいです。

◎「飛んでいけ！車いす」の会 パンフレットより

車いすと一緒に飛ぶ人の他に、会では色々な活動を展開しています。あなたも参加しませんか？

会員になる、寄附をする。

年会費は、
正会員：一般—□ 5000円
学生—□ 1000円
賛助会員：一般—□ 2000円
団体—□ 5000円

特別金は、
—□ 1000円以上をお願しいしています。

車いすを、提供する。

使用しなくなった車いすも回収ください

車いすを、整備する。

修理費用で車いすの整備・清掃をいたします。ご負担もありません

ボランティアをする。

パソコンができる人、語学ができる人、事務所の運用など、短時間でも

【飛んでいけ！車いす】の会事務局
〒100-0005 東京都千代田区有明7丁目1番10号
TEL: 03-5442-9171 E-mail: info@flyandride.jp
URL: http://flyandride.org/



〈学生ボランティアとの出会い〉

「飛んでけ」には私の大学や専攻とは異なり、国際交流を専攻としていて、卒業後の進路や将来の目標として、海外へ赴くことや国際協力を掲げる人も少なくありません。本当に個性が豊かです。またそれにかかわらず、会報の作成やホームページの更新、広報活動、およびイベントの運営など、中心となつて行動するのは学生であるため、各々が「飛んでけ」に対して真剣に関わっています。同じ年代なのにもかかわらず、持つ経験値や能力の高さに頭が下がるが多々あります。

〈人生の先輩たちとの出会い〉

学生だけではなく、「飛んでけ」には世代を超えた様々な人達が関わっています。定年退職を迎えた後に、車いすの整備ボランティアとして一〇年近く関わっている方や、今までにいくつもの災害ボランティアを経験してきた方、また、国際協力に長く携わり海外経験に富んでいる方など、先輩たちのお話を聞くのはとてもためになります。また、私達学生ボランティアに様々なアドバイスをしてくれます。

このような出会いは、「飛んでけWorld」だからこそ経験出来ることだと思います。

新たな踏み出し

「飛んでけ！車いす」の会が設立されて、今年で一二年になろうとしています。ここまで活動を続けてこられたのも、会員の方々を始め、今まで車いすを運んでくださった沢山の方々、および多方面から支援をしてくださっている方々のお陰です。本当に感謝しています。

今後「顔の見える国際交流」として活動を続けていく中で、当会が目標として掲げていることがいくつかあります。まず、海外のNGO団体と連携を強化し、海外の福祉環境を改善していくこと。次に、より効果的な車いす輸送支援を行うために、日本国内でのネットワークを広げること。そして、リアフリー社会を目指し、国内外の障がいを持つ方々と共に活動を行っていくということなのです。

特に、二つ目に挙げた国内ネットワークの拡大に関しては、今年の秋に、車いすを海外に届ける活動をしている全国の団体を北海道に招いて「車いすサミット」を開催する予定です。この企画を通してお互いのノウハウや抱えている課題を共有し、より質の高い支援を目指そうと考えています。

しかしながら、会を運営し活動を続けていく中で様々な問題もあります。

例えば、当会の活動は学生ボランティアが中心となっているために、彼らの卒業に伴って常に新たな人材の確保が必要です。また、沢山の人達がボランティアとして活動に関わっているために、いかに情報を共有し、それらを活動に役立てていくかといった課題も生まれてきます。加えて、どこのNPO団体にも共通して言えるように、活動資金の確保も重要な課題です。

私たちはこのような課題を少しでも解消するために、組織の運営を学ぶワークショップに参加したり、新たに「車いすスポンサー」を募る計画を進めたり、情報のデータベース化を図ったりと日々努力を続けております。

これらも車いすを通して「善意のネットワーク」を広げ、一人でも多くの人を幸せに出来るよう、様々な人達と協力しながら頑張つて参ります。皆さんもぜひ、「飛んでけ！車いす」の会と共に国際交流を始めてみませんか？

おわりに

この原稿を書くにあたり協力してくださった皆さん、本当にありがとうございました。今後とも「飛んでけ」の一員として頑張りますので、よろしくお願ひいたします。